第３回瑞浪市市民まちづくり会議　会議録

■日時：令和２年２月 18 日(火)　19：00～20：50
■場所：瑞浪市役所　西分庁舎１階会議室
■出席委員
　羽柴　誠、大野正博、伊藤雅敏、和田さき子、坂井宗明、渡邉勝利
　梅村優子、成瀬明子
欠席委員
　遠藤俊哉、本荘恵子、上休場泰満、遠藤里絵
　［名簿順　敬称略］
■事務局
　景山博之（まちづくり推進部長）
　工藤嘉高（市民協働課長）
　渡辺　裕（市民協働課まちづくり支援係長）
■日程
１．会長あいさつ
２．審議事項
（１）まちづくり基本条例に基づく取組み評価（案）
３．その他
（１）個別に議論したい取組みについて

■議事

事務局　ただいまより、第３回瑞浪市市民まちづくり会議を開催します。私は、まちづくり推進部市民協働課長の工藤と申します。会議冒頭部分のみ、進行役を務めさせていただきます。どうぞよろしくお願いいたします。

それでは、羽柴会長、ごあいさつをお願いします。

【１．会長あいさつ】

会長　今月、陶地区で駅伝が開催されますが、年々参加チーム数が少なくなっており、特に一般女性チームへの参加が少ないようです。女性のパワーをいかに取り入れていくかが課題となっています。また、少子化の影響なのか、正月の凧揚げなど子どもたちが外で遊んでいる姿を見かけなくなりました。
　本日の議題の中でも取り上げられる予定ですが、子どもや女性がまちづくりに関わってもらうよう、幸せ実感都市みずなみに向けた取組みを推進できるよう忌憚のないご意見をよろしくお願いします。

事務局　ありがとうございました。本日は、委員１２名中８名の出席ということで、委員の過半数の出席があり、本会議の開催要件を満たしていることを報告させていただきます。それでは、これより先の議事進行は、条例の規定に従い、会長に議事を進行していただ

きます。それでは、羽柴会長、お願いいたします。

会長　　それでは、これより会議を進めてまいります。委員の皆さまには、慎重な審議をお願いしたいと思います。この会議は、会議運営規程により公開の会議となっております。事務局、本日のこの会議の傍聴希望者はありますか。

事務局　　ありません。

会長　　傍聴希望者無しということで、レジメに従い会議を進めたいと思います。
　それでは、２．審議事項について、（１）まちづくり基本条例に基づく取組み評価（案）について、事務局より説明をお願いします。

事務局　　◆第 9 条より順に事務局より説明。
＜第 9 条について＞
委員　　他地区の子どもたちの参加を増やすため、送迎用のバスを手配できると良いと思います。
委員　　例えば、青少年育成について、北中学校の生徒がボランティアとして参加しています。これまでは土岐地区・明世地区のみでしたが、校区が釜戸町・日吉町・大湫町まで広がったため、今後は参加者の交通手段をいかに確保していくかが課題であるとの意見がありました。
委員　　私の地区でも子どもたちが外で遊んでいる姿を見なくなりました。地域のつながりが減ってきていることも原因かと思います。子どもの集まる機会を増やせないかと思います。

＜第 10 条について＞
委員　　＜特に意見なし＞

＜第 13 条について＞
委員　　市民アンケート結果では「住みやすい」と回答した割合が 71.6％であったようですが、全国と比較してどのようであるか比べていくことも検討して欲しいです。
委員　　瑞浪市は、人口規模は小さいが住みやすい街であるといわれることがあります。
委員　　議論を深めるには、「住みやすさ」を図る指標を定める必要があると思います。
委員　　バスの本数が少なく、高齢者の方は市内移動に不便を感じているのではないか。

＜第 14 条について＞
委員　　高齢化が進む地域への起爆剤として、例えば国へ特区申請を行い高速インターネットのインフラ整備や全戸世帯へ iPad を配布するなど、情報化を進める取組みを行ってみてはどうか。先ほどの市民アンケートにしても、各世帯からの情報が格段に集めやすくなり、また、広報紙面のどのページが見られているかを容易に確認できると思います。
委員　　iPad を配布した後の管理面での課題が考えられますが、面白い取組みだと思います。

＜第 15 条について＞

委員　　＜特に意見なし＞

会長　　ありがとうございました。ここで取組み評価の議論を終え、次の議題に移りたいと思います。次の議題では 2 つのグループに分かれ、議論を行います。

３．その他

（１）個別に議論したい取組みについて

＜各グループ内にて議論・発表：テーマ①若者や女性が魅力を感じるまちづくりについて　＞

Ａグループ

委員　　こちらのグループでは、地域によって活動の範囲に差がある、との意見となりました。

そのため、今後の取組みとして、各地域の活動だけでなく、市全域での活動ができると良いと思いました。例えば、七夕まつりでのバサラ踊りに地域単位で参加するとか、陶町の一周駅伝に女性グループとして参加をするとか。

Ｂグループ

委員　　こちらのグループでも、地域によって活動に差がある、との意見がありました。地域行事への参加具合をみると、地区の住民がほとんど参加している地区もあれば、そうでない地区もある。また、年代の傾向として、小学生・中学生のうちはボランティアとして参加する機会がありますが、高校・大学生になると、そういった機会も減り、地域行事との関わりが少なくなるように感じられます。まず、行事の目的を明確にし、若者や女性が楽しめる行事であれば参加も増えるのではないでしょうか。

委員　　ワークショップシートにある現状課題のように、主催者からの依頼によって若者に何かをやってもらうのではなく、発想を変え、現状の課題を若者に考えてもらい、若者が自らやりたいことをやらせてみてはどうでしょうか。また、これからのまちづくりでは、「若い女性の関心」がキーワードとなってきます。若い女性が何に関心があるのか、まずは意見を聞くための、女性が集まって議論をする場を提供する取組みが大事ではないでしょうか。

ワークショップとは離れますが、先ほどの条例取組検証にて、第 15 条の自由意見欄に「コンサルを使わないで瑞浪流の生き残り策を見つけていきたい」との意見がありました。これを発展させ、瑞浪流の生き残り策を若者・女性に考えてもらい、実践していくということは話題性もあり、とても良い取組み方ではないでしょうか。また、iPad の全戸配布という意見を発展させ、まずはモデル地区として小さい地域だけに限定し、どこよりもネットワーク環境が良いエリアを作ることで、若者が集まりやすくなるのではないでしょうか。

【閉会のあいさつ】

会長　　限られた時間ではありましたが活発な会議となりありがとうございました。

次回の会議でも議論を深めていけるよう、よろしくお願いします。

【散会】